

平成23年1月6日発行

会員各位

協会だよりー217(1月号)

JCRA(Japan Catalyst Recovering Association)

触媒資源化協会

2011年年頭の挨拶

謹んで初春をお祝い申し上げます。

会員各社の皆様並びに関係各位におかれましては、ご家族ともども清々しい新年をお迎えになられたことと心からお慶び申し上げます。

さて、昨年は、政治経済ともに波乱に富んだ年でありました。春先から年央にかけて、ギリシャやアイルランド、あるいはポルトガルなどヨーロッパ諸国の金融危機が、またぞろ世界金融危機に進展かと懸念されましたが、関係諸国の迅速対応により火種は絶えてはいないものの一応鎮火いたしました。政治では、オバマ大統領の Change 政策は遅々として進まず、景気回復の遅れがそのまま保守的反動に繋がって中間選挙は大敗を喫しました。我が国においても、民主党の政策は、国民の期待とは裏腹に、迷走に継ぐ迷走で、鳩山・小沢体制が管総理を頂点とする反小沢シフトへ急変、その後も消費税増税発言、参議院選大敗、尖閣列島問題あるいは中国のレアアース出荷停止問題への波及、ロシア大統領の北方領土訪問と所有権宣言などから今では誰もこの政権が継続するとは思えないほど不支持率が上昇しました。また、猛暑が過ぎたとホットも束の間、秋口以降の急激な円高の進行もあり、日本経済もまた成長の方向を見失っているかのようであります。朝鮮半島情勢も未だ予断を許さない状況下にあります。



触媒資源化協会
会長 大井 滋

こうした不安定な政治経済状況にも拘わらず、銅や貴金属、レアメタルなどの金属価格は夏頃から急騰しており、銅価はトン当たり \$ 10,000 に迫る過去最高水準へ、金はオンス当り \$ 1,400、銀にいたっては \$ 30 と高水準で推移しています。これは需給というよりも、今なお続く資源争奪戦を背景に、金融緩和によって余った巨額資金が比較的将来期待できそうな金属市場に流れ込んできたことによるものと思われます。従って、いわばバブルの様相を呈しており、何時はじけるのかという不安感も募らせております。かくして、金属価格高は諸手を挙げて歓迎とは言い難い感があります。

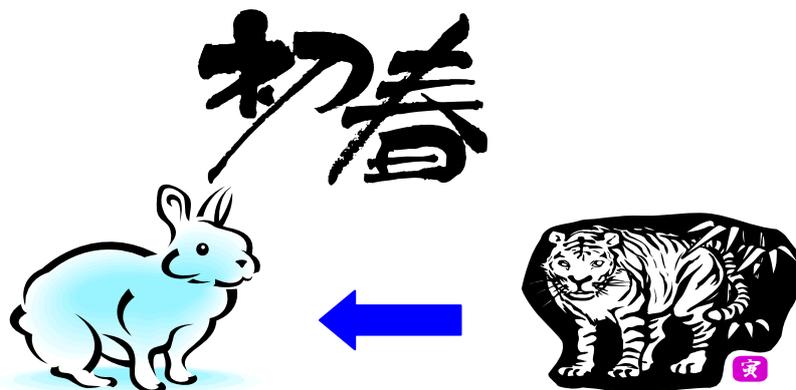
この様な騒々しく、急変した事業環境にあつて、製造業の海外移転という現象も加わり、会員各社におかれては、荒れ狂う大海での操船の如く、大変なご苦勞をされた

のではないかと推察する次第であります。ただ、少なくとも言える事は、環境問題もさることながら、レアアース確保問題もあったお蔭で、資源確保のためのリサイクル熱は国民レベルにおいて一層増したものと思います。課題は都市に眠るあるいは海外へ流出する潜在資源を如何により効率良く回収していくかであります。また、回収金属の種類をどのように増やしていくかも大きな課題であります。斯様に、「資源循環」への取り組みは待ったなしであり、これも時代の要請と捉えれば、我が業界にとって却って光栄の至りとも言えそうです。

今年は「ウサギ年」です。優しげで穏やかな家内安全の象徴のようですが、その躍動的な様から「飛躍の年」としての暗示もあるようです。我々協会員もウサギの如く、困難をものともせず、ピョンピョン跳ねて、リサイクルをより一層強力に推進し、資源確保を通じて国内外を明るくし、多くの幸をもたらすシンボルに重ねてもらえるよう、スクラム組んで共に着実に進んでまいりたいと存じます。つきましては、ご当局ならびに関係諸団体の皆様方には、一層のご支援およびご指導をあらためてお願い申し上げます。

最後になりましたが、会員各社の益々のご発展と、関係各位ならびにご家族のご多幸、ご健勝を祈念いたしまして、新年の御挨拶といたします。

※ J X 日 鉱 日 石 金 属 株 執 行 役 員 環 境 リ サ イ ク ル 事 業 本 部 長



新春のご挨拶有難うございます。今年もよろしくお願ひ申し上げます。

- 株式会社アサカ理研 本田 武保 様
- 株式会社大島産業 大島 千尚 様
- 環境技術・健康安全研究所 遠藤新治郎 様
- ジョンソン・マッセイ・ジャパン・インコーポレイテッド 殿
- ソーラメタル株式会社 村上美紗子 様
- 泰和株式会社 栄川 政彦 様
- 東京化学開発株式会社 深澤 豊昭 様
- 日本無機化学工業株式会社 河野 照男 様
- ミヤマ株式会社 川上 好武 様

<トピックス>

- 第208回月例会(講演会・新春懇談会)平成23年2月17日(木)15:30~20:00
場所: JXグループ六本木クラブにて開催されます。講演テーマはクリーン・コール・テクノロジー~地球環境問題への対応~で講師はNEDO環境部の矢内俊一氏です。



- 一. 協会よりのお知らせ
【実施済事項】
- 二. 経産省通信(十二月度)
【予定事項】
- 三. 寄贈文献
- 四. 事務局より(一月度の予定)
- 五. 【雑学】発祥の地(私学揺籃の地)Ⅶ

1. 協会よりのお知らせ

【実施済事項】

- ① [協会だよりー216\(12月号\)](#) をメール&郵便で送信 (12/1)
- ② 第208回月例会の講演会・講師訪問。
日時: 12月14日(火)
場所: NEDO事務所(川崎市)
訪問者: 斉藤運営委員(日揮触媒化成株)、佐藤運営委員(日誠金属株)、小林専務理事。
- ③ 35周年式典報告書発送 (12/17)

【予定事項】

- ① JOGMEC 調査中間報告
日時: 1月11日(火)16:00~17:00
場所: JOGMEC 東京事務所
出席: 小林専務理事
議題: 調査受託機関・神鋼リサーチ社、JOGMEC による中間報告。
- ② 第1回広報委員会
日時: 1月18日(火)10:30~12:00
場所: ジョンソン・マッセイ・ジャパン会議室
議題: 2010年の反省と2011年に向けて、他。
- ③ 第7回運営委員会
日時: 1月21日(金)15:30~17:00
場所: 堺化学工業株会議室
議題: 第208回月例会の準備、確認。35周年式典の反省点、他。

2. 経産省通信(12月度)

- ・12/1 国家公務員倫理法・倫理規程に係る協力依頼
- ・12/8 レアアース対策事業に関する説明会のご案内
- ・12/16 第4回ものづくり日本大賞の募集について
- ・12/22 【公募開始・HP掲載】レアアース等利用産業等設備導入事業について

3. 寄贈文献

- クリーン・ジャパン・ニュースレター No. 30(12月発行)((財)クリーン・ジャパン・センター)(12/3)より転載

□使用済み小型家電からのレアメタル回収及び適正処理に関する研究会
リサイクルシステムワーキンググループ

環境省廃棄物・リサイクル対策部長及び経済産業省大臣官房審議官(産業技術・環境担当)の研究会として開催されている「使用済み小型家電からのレアメタルの回収及び適正処理に関する研究会」のリサイクルシステムワーキンググループ(座長：慶應義塾大学経済学部教授 細田 衛士氏)において使用済み小型家電リサイクルシステムの経済評価や、リサイクルシステム構築に向けた論点整理と留意点を内容とする中間取りまとめが行われました。

4.. 事務局より(1月度の予定)

曜日	月	火	水	木	金	土
2週	3	4	5	6	7	8
	×	×	×	○	○	×
3週	10	11	12	13	14	15
	×	○	×	×	○	×
4週	17	18	19	20	21	22
	×	広報委	×	×	運営委	×
5週	24	25	26	27	28	29
	×	○	×	×	○	×
6週	31	2/1	2/2	2/3	2/4	2/5
	○	○	×	×	○	×

事務局延べ出勤予定：9日(○；終日、△；半日、×は休日)。

5. 【雑学】発祥の地(私学揺籃の地)Ⅶ

現在の東京23区の内、千代田区、中央区、港区には明治・大正時代の学校発祥の地が多い。今回は千代田区にある東京電機大学、大東文化大学発祥の地を紹介する。

【東京電機大学】

もうすぐ大正が近づくことになる明治40年(1907)廣田精一、扇本眞吉が電機・機械技術者を養成する目的で電機学校を創立しました。昭和24年(1949)学制改革により東京電機大学に昇格し、初代学長には電送技術を発明した電気界では著名な丹羽保次郎を迎えました。平成19年(2007)には創立100年を向かえ、現在東京神田、千葉ニ

ュータウン、埼玉鳩山の3キャンパスに未来科学部、工学部、理工学部、情報環境学部の4学部を有し、大学には12000名が学ぶ理工系の総合学園になっています。2012年4月には神田錦町のキャンパスから北千住駅前の旧JT社宅跡地にキャンパスを移転すべく建設が進んでいます。



碑の所在は千代田区神田錦町2丁目の大学校舎の裏手、駐車場の近くにある。

電機学校発祥の地
1907年9月11日 電機学校この地に設立される
幾多の有為なる人材を世に送り その使命を今
東京電機大学に託す

【大東文化大学】



碑の所在地は、千代田区富士見1丁目の都営住宅の前に設置されている。この住宅は靖国神社の裏手にあり、暁星学園、和洋女子九段中高校、九段中等教育学校に囲まれて、都心とは思えない静かな場所にある。

現在、板橋高島平、埼玉東松山の2キャンパスに文学・外国語学・経済学・経営学・法学・国際関係学・環境創造学・スポーツ

健康科学の8学部を有する文系の学生数1万人を超える総合大学となっています。

大東文化大学発祥の地(碑文)

大学の前身である大東文化学院は大正十年の貴衆両院による「漢学振興に関する建議案」の決議に由来し、大正十二年九月二十日この地に設立された。

その後、昭和二十四年四月、新制大学の認可を得、現在の大東文化大学(板橋区高島平1-9-1)として発展し来っている。ここに、その歴史を刻し、建学の志を新たにす。

平成元年四月吉日
学校法人 大東文化学園
大東文化大学

【文責：専務理事】